

VI. 研究グループ中間報告

1. SLP1 (選択プロジェクト) 部会中間報告

薫 森 英 夫・矢 木 修
 飯 島 幸 久・川 田 基 生
 杉 本 雅 子・鈴 木 義 晴
 西 川 陽 子・長 瀬 加 代 子

【抄録】 2006年度、本校はスーパーサイエンスハイスクール（以下SSH）に指定された。それに伴い、本校独自のサイエンスリテラシーを定義し、中学生の段階からその力を身につけさせるカリキュラムを作成しようということになった。その一端を担うのが従来の選択プロジェクトである、サイエンスリテラシープロジェクト1（以下SLP1）である。従来の選択プロジェクトから、どのように変化させればSSHの基礎となる学力をつけることができるのか、初期段階の報告をまとめた。

【キーワード】 SSH、SLP1、選択プロジェクト

1. はじめに

今年度前期選択プロジェクトの開講講座は下記の通りである。

国語	楽しい毛筆教室
社会	映像の20世紀
数学1	図形を楽しもう！
数学2	数学をつくろう～数研にチャレンジ
理科1	身近な材料を使った実験
理科2	身近な科学
音楽	音楽のソムリエになろう
体育	附属発！未来のスポーツ
家庭	食べてみる食品実験・実習
英語	ENGLISH THROUGH THE MOVIES

SSHに指定される直前に講師と講座内容が決定したので、前期に関しては表の内容で自由に行うが、後期に関しては、次の点をふまえて講座を展開する予定である。

2. SLP1としての選択プロジェクト

(1) 主な変更点は下記の通り

ア 全ての講座を、科学・ものづくり・表現・地球市民講座のどれかに分類する。

分類は下記の通りである。

・科学・・・・・・・・数学、理科

・ものづくり・・・・技術、家庭、美術

・表現・・・・・・・・国語、音楽、体育

・地球市民・・・・社会、英語

イ SLP1の講座内容が、新教科（SLP2）や学びの杜（ASP）に直結するような内容とする。

ウ SSHに鑑みて、中学2年次に科学講座を必ず1講座は受講する。

エ 科学・ものづくり・表現・地球市民講座それぞれ1回は、中学生とその保護者を対象にして、「SLP1版学びの杜」を開催する。

オ SLP1において共通の「目標とする学びの力」を6つ定義し、各講座においてそのうち最低一つは学習目標に組み込む。定義したものは下記の通りである。

(ア) 自然観察力

(イ) 実験技術力

(ウ) ものづくりによる創造力

(エ) 科学への興味・関心

(オ) ことばや数式等による論理的思考力と表現力

(カ) 科学技術の社会的課題に関する理解力

(2) さらなる発展を目指して下記のように変更を加える

ア 後期から共通のフォーマットで学習シラバスを作成する。

イ 来年度の前後期共通の学習シラバスの検討を同時に行う。

ウ できるだけ専任教師による継続的な講座が望ましいが、現実的に困難なので、誰が担当になっても関連性のある講座を開講できるように、毎年SLP1の集録を作成して、過去の講座内容などをわかりやすくする。

エ 生徒から講座の感想や、講座を通してどんな事を学び、どんな力がついたかななどをフリーライティングで書かせて集録に載せる。

オ 来年度からはできる限り専任講師が講座を担当するように、各教科で検討する機会を設けてもらう。

(3) SLP1の問題点は下記の通り

ア どんなにがんばってもSSHではなく、中学校のカリキュラムである。

イ SLP2やASPに関連づけると言っても、選択プロジェクトや新教科群が今のままでは概念的な関連づけをすることが精一杯である。

ウ 専任講師による講座が確保しにくい。

エ 半期7回の授業でどこまで踏み込んだ内容の講座をもてるか、つけさせたい力をつけさせられるのが難しい。

(5) SLP1版学びの杜を開こうにも、土曜日には本来の学びの杜講座が多く、日程が重ならずの開講可能な日が少ない。

3. おわりに

まだまだどの部会も手探りの状態だが、SSH5年計画の中で、このSLP1だけは初年度から実績を残さなくてはいけないようになっているので、これからさらに検討していきたい。また、ある程度完成されていた選択プロジェクトに、さらに改良を加えることで、より生徒の参加意欲と学力を高めることができるよう、部会のメンバーで大至急検討していきたい。それを後期に実行し、さらに来年度につなげていきたい。